

令和3年度静岡県献血推進協議会議事録

日 時	令和4年3月14日（月） 午後1時30分から2時30分まで
場 所	もくせい会館（静岡県職員会館）富士ホール
出席者	別紙のとおり
議 題	<p>(1)報告事項</p> <p>ア 令和3年度の献血の状況</p> <p>イ 令和3年度静岡県献血推進計画に基づく事業の実施状況</p> <p>ウ 令和2年度静岡県献血推進協議会における御意見とその対応について</p> <p>(2)協議事項</p> <p>令和4年度静岡県献血推進計画（案）</p> <p>ア 献血により確保すべき血液の目標量及び献血者確保目標人数について</p> <p>イ 目標量を確保するために必要な措置及びその他献血の推進に関する重要事項について</p>
配布資料	<p>(1) 令和3年度静岡県献血推進協議会資料</p> <p>(2) 令和3年度静岡県献血推進協議会（参考資料編）</p> <p>(3) 血液事業の現状（冊子）</p> <p>(4) 献血インフォメーション（パンフレット）</p> <p>(5) ABOニュース（冊子）</p> <p>(6) 愛のかたち献血（冊子）</p>

## 令和3年度静岡県献血推進協議会出席者

氏名	所属・役職	備考
青木春美	公益社団法人静岡県看護協会専務理事	委員
赤塚顕宏	公益社団法人静岡県私学協会（静岡女子高等学校校長）	委員
大重由香理	公益社団法人静岡県薬剤師会常務理事	委員
小川潤	公益社団法人静岡県病院協会参与（静岡赤十字病院院長）	委員
北村綾子	あけぼの静岡 副代表	委員
小泉美津江	静岡県民生委員児童委員協議会監事	委員
櫻町宏毅	日本労働組合総連合会静岡県連合会副事務局長	委員
鈴木亨	日本赤十字社静岡県支部事務局長	委員
泉明寺葉子	静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長	委員
高橋邦典	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会常務理事	委員
田村ひさ子	一般社団法人静岡県地域女性団体連絡協議会副会長	委員
夏目敏孝	一般財団法人静岡県交通安全協会専務理事	委員
平野君代	静岡県商工会連合会（静岡県商工会女性部連合会副会長）	委員
藤浪貴久	静岡県国民健康保険団体連合会事務局長	委員
藤曲敬宏	静岡県議会厚生委員会委員長	委員
古橋奈々	静岡県学生献血推進協議会委員	委員
田中喜久夫	健康福祉部生活衛生局長	県関係（知事代理）
堀川 俊	健康福祉部生活衛生局薬事課長	県関係
米倉克昌	健康福祉部生活衛生局薬事課技監兼課長代理	県関係
中村孝寛	健康福祉部生活衛生局薬事課薬事企画班長	県関係
中西隆之	健康福祉部生活衛生局薬事課専門主査	県関係
清水直美	健康福祉部生活衛生局薬事課専門主査	県関係
小澤 裕	健康福祉部生活衛生局薬事課主任	県関係
野際建司	教育委員会健康体育課健康食育班長	県関係
鶴田憲一	静岡県赤十字血液センター所長	日本赤十字社関係
藤村優二	静岡県赤十字血液センター献血推進部長兼沼津事業所長	日本赤十字社関係
村上優二	静岡県赤十字血液センター献血推進副部長兼献血推進課長	日本赤十字社関係
武田章	静岡県赤十字血液センター事業副部長兼総務課長	日本赤十字社関係
小長谷隆	静岡県赤十字血液センター学術情報・供給課長	日本赤十字社関係
袴田美佐子	静岡県赤十字血液センター総務課企画総務係長	日本赤十字社関係
皆木暢之	静岡県赤十字血液センター総務課主事	日本赤十字社関係

## 1 協議内容

次の事項について、関連資料に基づき事務局から説明した。

### (1) 報告事項

ア 令和3年度の献血の状況

イ 令和3年度静岡県献血推進計画に基づく事業の実施状況

ウ 令和2年度静岡県献血推進協議会における御意見とその対応について

### (2) 協議事項

ア 令和4年度静岡県献血推進計画（案）

(ア) 献血により確保すべき血液の目標量及び献血者確保目標人数について

(イ) 目標量を確保するために必要な措置及びその他献血の推進に関する重要事項について

## 2 委員からの質疑等

### (1) 報告事項に関する質疑応答

(田中生活衛生局長)

皆さま、献血の関係で御活動されていますが、コロナ禍ということでそれぞれのお立場で御苦労されている点があるかと思えます。そんな中で、献血を推進する立場で泉明寺委員にお伺いしたいのですが、日頃御協力いただいている中で、何か御苦労された点がございましたら御紹介いただければと思います。

(泉明寺委員)

自分自身がこの中で最高齢だと思います。自分自身も献血できない。コロナ禍で献血のお手伝いもできませんでした。こちらからお伺いしたいのですが、若年層とはどれくらいの方が対象なのでしょう。

(中村薬事企画班長)

16歳から30代くらいです。

(泉明寺委員)

小学生はどうなのでしょう。

(中村薬事企画班長)

この若年層とは献血に御協力いただける方です。あとはこれから献血できるようになるまで、まだ年数のある小学校、中学校の方々に対しても早いうちから献血のを知ってもらい、興味を持ってもらい、その年になったら、献血に御協力いただけるような、そのような対策を実施しているということでございます。

(泉明寺委員)

わかりました。

(田中生活衛生局長)

最高齢とおっしゃっていたのですが、そういった中、おそらく一番若い学生献血推進協議会として御参加いただいている古橋委員にお伺いします。学生ボランティアとして献血活動をしていただいています。やはりコロナ禍ということで何か工夫された点あるいは御苦労された点がありましたら御紹介ください。

(古橋委員)

今大学のボランティアを主体にして活動していますが、やはりコロナ禍ということもあり、大学側からサークル活動は制限されてしまっている。普段は赤十字の方と協力して、商業施設などで献血の呼びかけを行っていますが、それもできず、外部での活動が制限されてしまっている。サークル自体もあまり活動ができていないという状態になっています。

(田中生活衛生局長)

なかなか外出自体がコロナ禍前のようにいかないということもありまして、今御紹介いただいたようなことで、サークル活動も含めていろいろな活動が制限されてしまっているということがあって、御面倒をおかけしているかと思えます。ただ、また先ほどのお話のなかでも若い方の献血ということが非常に重要と考えておりますので、今後とも是非御協力いただければと思います。よろしく願いいたします。他に何かございますでしょうか。

(櫻町委員)

コロナ禍でなかなか活動が十分できないという中、事務局から昨年同様血液を確保できそうだという報告をいただきました。一般的には活動ができないと、献血していただく血液量も減るのではないかと思います。それが維持できている。コロナ禍であっても何らかの要因で献血をしていただく方が増えているというように考えられると思いますが、それでどのような分析をされているか伺いたいと思います。もう一点、ラブラッドは昨年から急激に登録者が増えています。これは何らかの仕掛けがあるのではないかと思います。その辺も御説明をお願いしたいと思います。

(堀川薬事課長)

最初の御質問については、コロナ禍の最初の頃は献血者の確保に非常に苦しみました。企業の献血も学校の献血も、献血バスの受入れが中止ということで、大変血液センターも御苦労されたと思います。そのことを広報、マスコミを利用して献血が足りないということアピールし、そこで水泳の池江選手が血液製剤を使う立場でコメントされたりしたことで多くの方の御協力をいただいております。その後は、献血バスの代替の派遣場所の確保や対面によらない啓発、広報ということで、LINEやTwitterを用いて呼び掛けを行い、多くの方に御協力をいただき、結果として、例年よりも多くの献血者を確保できたという状況でございます。

(血液センター 村上事業推進副部長)

ただいま、県の方から説明があったとおりに思います。特に献血を従来からお願いしている企業様も、やはり緊急事態宣言が出たり、まん延防止等重点措置が出たりしますと、献血の方の受け入れ難くなっているということで、代替会場としては、まずは、過去に献血をお願いしたことがある会社様とか、時期をずらして本来は夏にやるところ冬もお願いしたり、それから一番大きいものは、大型のショッピングモールで献血の御協力をお願いする場合に、今までよりも回数を多く、土日祝日に移動採血車を置かせていただいて、そこで献血者の確保の方は、血液センターが直接はがきやお電話やメールでお願いして確保するといった、そういった回数がかなり増えてまいりましたので、何とか輸血用の血液については、お届けすることができているというような状況でございます。

ラブラッドの会員数の増加につきましては、全国と違いまして、静岡県としてもかなり頑張ってきました。なかなかすぐに上がらないというのがありました。一番効果的だったのが、移動採血で、献血カードをお渡しする時に御説明を丁寧に申し上げて、その場で登録をしていただくといった形をかなり数多くとりました。それともう一つは、コロナ禍で企業様から寄贈されている記念品というものが増えて参りまして、そんな記念品を登録する時にお渡しできますよという形で、少しPR等をしまして、そこで御理解いただく方が増えたと認識しております。

(櫻町委員)

血液センターさんを中心に活動していることがよくわかりました。これからコロナが落ち着いた時に血液が足りなくなるというタイミングの時に今回の経験を追加し、必要な血液量を確保するという取り組みをつなげていただきたいと思います。

## (2) 協議事項に関する質疑応答

(藤浪委員)

資料としては、1年間の目標値は確保できたということで、お聞きしましたが、例えば血液は使用期限、保存期間があると思いますが、月によっては足りなくて、例えば他県から融通を受けたとか、そのような状況はございますでしょうか。

(血液センター 小長井学術情報・供給課長)

静岡県の血液については、東海北陸ブロック血液センターで製造していて、そこから集められたものを、東海各県に振り分けて分配する形をとっておりまして、過不足があった状況においても、各県へ困らないように、ブロックセンターで調整していただいております。静岡県におきましては献血でいただいた血液の量よりも、時として血液が不足するケースもありますが、ブロックセンターの方から補充していただいて県内は過不足なく供給できるような体制をとっております。

(藤浪委員)

実はうちの事務所も年2回ほど献血車が来ていただいて、私もラブラッドの会員になっていますが、令和3年度は2回ともできず、残念でしたが、実際にメールで、次回はいつから献血ができますとか、近くの事務所に献血車が行きますという御案内をしていただいて、いろんな情報が受け取っていますので、今後もよろしくお願ひしたいと思います。

(鈴木委員)

献血者確保目標が14万6,300人ということでございますが、資料を見ますと、過去は14万6,300人を上回る目標を設定している年もあります。この資料を見る限りでは、献血受付者数で14万6,300人という数字を実績として上回っているところがないようなんですが、この目標を設定して、その実現に向けた新たな取り組み等、何かお考えになっている点がありましたらお願ひしたいと思います。

(中村薬事企画班長)

まず取り組みの中でも継続し実施をしている、若年層の方々の対策を引き続き強化をしていかなければならないというところです。過去の数値を見ると、14万6,000人を上回る献血者数を確保していた時期もありますので、この時はまだ若い方が多かったということもあるかもしれませんが、若い方々に献血に協力いただき、継続的に献血を担っていただけるような形で取り組んでいければ良いと考えているところでございます。

(田中生活衛生局長)

今までの取組をより一層しっかりやっていくということと、先ほどもこのコロナ関連対策の周知、協力依頼というのは資料にございますが、それをしっかりやって、目標値を確保していくということだと思います。

(田中生活衛生局長)

やはり若年層の献血者が減少しているということで、それに対する対応や対策について、話がありましたが、赤塚委員にコロナ禍における学内献血の推進について何かお考えがありましたらお願ひします。

(赤塚委員)

静岡女子高校に今年度勤務をしておりますが、御報告ありましたとおり、高校生の献血者数が減少しているということで、令和2年度につきましては4月、5月の県下一斉の学校閉鎖がございまして、時期的にちょっと実施ができなかったと。その後、毎年健康診断があり、そのスケジュールが2学期以降になりましたが、コロナの影響があつてなかなか調整が難しいこともあつて、献血車に来ていただくような日程調整が難しかったと思いますが、私の現在の学校、それから昨年度は別の学校に勤めておりましたが、どちらも実施いたしました。基本的に献血車であればこの感染防止対策はしっかりできている前提でございましたので、校内の企画をしております養護教諭から、校長、どうしますかという話

はありましたが、大丈夫であるから実施しましょうという判断をいたしました。献血に協力するにあたりまして、大体どこの学校でもそうだと思いますが、保健室で発行している保健だより、また生徒の保健委員会の活動、そういった形で献血活動を呼びかけております。従いまして感染防止対策もしっかりできておりますので、去年はちょっと不安な面がありまして落ち込みましたが、来年度は通常に戻っていくのではないかなという感想を持っております。校内での実施として難しいところがあるとすれば、生徒が献血に1人あたり、10分から15分程度かかって休憩時間も取りますので、どうしても授業を抜けていく形で実施をしますので、その後、時間の調整というのは、校内的な課題としてはございますけれども、それは工夫をしながら実施をしていくということでございます。

必要な措置という記述の中で、献血未実施校に対する戸別訪問を実施されるということでもございましたので、そういった形でまだ実施されてない高校につきましては、啓発活動を進めていただけるとありがたいと思います。

(田中生活衛生局長)

やはり高校の中でやるという点と難しい点があるかと思いますが、ぜひよろしくお願ひいたします。実際に献血自体ができないにしても、献血というもののことをしっかりお伝えできるようなことができる、やはりその高校生の頃にその体験してあるいは話を聞いたことというのは、以前の国の調査でも、後々献血のことを意識していくというような調査結果もあるようですので、ぜひともよろしくお願ひします。

(赤塚委員)

アボニュースを御紹介いただきまして、県内の昨年18校程度でしょうか。先ほど御紹介の冊子の中で、アボちゃんサポーターに生徒の感想等を拝見いたしました。やっぱり献血のきっかけがあれば、献血をしたいという生徒も多数いると思います。この記述によりますと、身近な人が献血を行うと。一緒に行くことで、献血は広がるということがございますので、前任校でアボちゃんサポーターに参加いたしました。地道な活動ではあると思いますが、ぜひ進めていただけるとありがたく思っております。

(田中生活衛生局長)

県民を代表する立場として、県議会厚生委員会の藤曲委員に御出席をいただいております。何か県の血液事業に対しまして、御意見等ありましたらお願ひいたします。

(藤曲委員)

先ほどから献血者の確保を御苦労されている中で、40代から60代の方が非常に少しずつ伸びていられているというのは、私もそうなんです。献血をすることが自分自身の健康のバロメーターになるというか、検査をして、献血をした後、血液検査の結果が出てきて、それを持って自分がどうなっているかなという関心を持っている方も中にはいらっしゃると思っております。そういう意味で、これは今後の取り組みとして、御提案なんです。今、国もデジタル庁ができて、デジタルトランスフォーメーションということで、デジタル化

をどう活かしていくかという中で、マイナンバーカードと保険証が連携するようになったという中で、その中に、今後、医療関係では電子カルテ等も入れられたらいいというような話もあります。その中に健康データとして献血をした時のデータが、蓄積されていくとなると、例えば次、何かあったときに、マイナンバーカードで、自分自身のそれまでの健康状況のデータが、医療関係者もすぐに提供できるというように将来的にはなって連携できると、やってる方々が、自分に対してのプラスだということで、この献血に取り組めるのではないかなと、今後そういったところも、時代に合わせて、取り組むことが、献血者の確保に繋がるのではないかと考えています、その辺のところを考えました。

(田中生活衛生局長)

現在、献血の時に、カードのデータを日赤の血液センターで管理してるかと思いますが、その点で、何か血液の検査データ関係で、デジタルトランスフォーメーションに関して、何かお考え、お答えできることがあれば、お願いいたします。

(血液センター 藤村事業推進部長)

血液センター、血液事業の方で取り組みとしてやっているのは、ラブラッド会員の方には、御自身のスマホを連携させて、そこに過去から今までの自分のデータが見られるという取り組みが始まったのが、このラブラッドでございまして、保険証との連携というのは、本社の方には提案をさせていただきますが、時間がかかるのではないかなと考えます。

(田中生活衛生局長)

なかなかすぐには難しいのかもしれませんが、血液の検査データというのは非常に重要なものだと思いますので、医療の方と一緒に何かできるかと思っています。

### 3 協議結果

事務局が示した計画案等について、各委員からの異議等なく、原案どおり令和4年度静岡県献血推進計画が了承された。

なお、計画については適宜内容の変更を伴わない微修正等を行い、公表及び厚生労働省への報告を行うとした。